

健康への



シリーズ⑨

急性肝炎とは

光町のみなさんこんにちは。今回は最近では国民病と言われている肝炎についてお知らせします。肝炎とは肝臓のなかで何らかの原因で炎症が起こり、急性期で治る場合とこじれて慢性になってしまう場合があります。肝臓の場合には慢性化することが多く、特に進行すると肝硬変から悪性腫瘍ができてしまうと言う点が困った問題点です。

肝炎は血液検査のなかでGOTやGPTといった数値が異常を示すことから診断されます。肝炎と少し離れますが、検査値が異常を示し炎症を伴わない肝臓病の代表は脂肪肝です。最近の日本人は栄養過多で肥満の人が多く、糖尿病・高脂血症・痛風などともに健康診断で最も多く診断されます。脂肪肝は肝細胞に過度に脂肪が蓄積して細胞が壊されて検査値が高くなります。運動や食事療法で改善しますので怖い病気ではありませんが、ほかの慢性疾患との区別が必要で、これには先月号で話した腹部の超音波検査（エコー検査）が最も有効です。

倦怠感・食欲不振・黄疸などで病院を受診し、血液検査をするとGOTやGPTが100以上となる場合は、肝臓が原因の可能性を考えて原因ウイルスの区別やエコーなどの精密検査が必要となります。急性肝炎は、胆管胆石（通常痛みを伴います）を除くと、ウイルスが原因のことが多く、

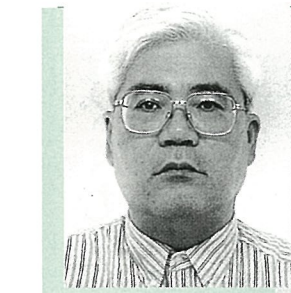
A型ウイルスなどが発見されています。D型F型は稀です。A型ウイルスによる感染は以前は流行性肝炎と呼ばれていましたが、ごく稀に劇症肝炎を起こしますが、大半は入院安静にて徐々に肝機能は改善し再発することはありません。原因は食事からの感染で、東南アジアなどの旅行の際の生水や国内では生の魚介類の摂取などによるものが報告されています。

B型の肝炎ウイルスは、成人の感染に関してはA型と同じように稀に劇症化しますが大半は治ります。困ったのは生まれる前後に感染しキャリア状態の人から発病することがあります。この場合は肝機能が改善しても慢性肝炎に進行することがあります。大人の感染原因は血液を介するものまたは性感染症の一つとなっています。新婚旅行の帰りに成田で黄疸が出て自宅に帰る前に入院してしまうというケースもあります。医療関係者など血液に触れる可能性のある人のためにはワクチンができています。

C型肝炎は、B型と同様な経緯で感染しますが、慢性化しやすいのが特徴です。まだワクチンができていません。B型とC型肝炎は以前は輸血後に肝障害を起こす血清肝炎と呼ばれていましたが、現在では感染血液は使用されず新規の発生はほとんどありません。急性ウイルス性肝炎では初期の診断が大切であり、劇症化や慢性化を防ぐためにも、無理をせずに入院して治療することが肝要となります。

※東陽病院の休日当番日

1月2日(水)・14日(祝)・2月10日(日) 午前9時～午後5時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎0413335



東陽病院 副院長 伊藤 文憲



リサイクルブックフェア

図書館では、知的資源の有効活用、リサイクル社会への対応を目指し、寄贈された資料のうち、図書館で利用しない資料を無料で差し上げます。

ご自由に何冊でもお持ち帰りいただけます。なお、資料の内容に関するお問い合わせ、事前の取り置きは出来ません。

日時 2月14日(木)～24日(日)
午前9時30分～午後6時
場所 図書館1階ロビー



＝町立図書館＝
☎043311

特別整理期間のお知らせ 1月28日(月)～2月6日(水)

館内資料の整理点検作業のため、休館します。本を返却する場合は、返却ポストをご利用ください。ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

1月の休館日

1日(祝)～4日(金)、7日(月)、14日(月)、15日(火)、21日(月)、28日(月)～2月6日(水)